

切り花の日持ち試験認定事業について

財団法人日本花普及センター

1 事業の経緯と背景

財団法人日本花普及センターの切り花の日持ち試験認定事業は、農林水産省の補助事業の日持ち保証システムモデル実証事業（平成15年度～17年度）及び財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成事業の「花卉生産流通システム研究会」事業（平成17年度）の成果を引き継ぐ事業として位置づける。

切り花の日持ち試験の方法、品質判定基準等を統一し、その名称は、

「日本切り花日持ち試験」（Japan Flowers Reference Test 略字 JFRT）」

とし、この商標登録を行う。

財団法人日本花普及センターは、これら事業で開発した33品目の品質評価基準及び品質チェックシートに基づき、日持ち試験の実施体制がある花き卸売市場等を日持ち試験の実施機関と認定して、切り花の日持ち試験認定事業を行い、種苗会社、生産者、花束加工業者、小売業者等からの申請に応じて日持ち試験の実施やその結果の公表等を実施する。

2 事業の仕組み

本事業の仕組みは、別添の「切り花の日持ち試験認定事業のフローチャート」のとおりである。

2.1 日持ち試験検討委員会の設置

当センターは、切り花の日持ち試験の方法及び品質判定基準等を検討して定めるため、学識経験者で構成する検討委員会を組織する。

2.2 日持ち試験の実施機関

当センターは、日持ち試験検討委員会の助言・指導に基づき、的確な日持ち試験が実施できる試験室と人材を有する花き卸売会社を試験実施機関として認定して業務提携を行い、日持ち試験の実施体制を整備する。

試験実施機関は、当面、日持ち保証システムモデル実証事業に参加・協力された株式会社大田花き等の花き卸売会社とするが、今後、日持ち試験室を整備して一定の試験実績のある花き卸売会社等を追加認定する。

2.3 日持ち試験の申請と料金

日持ち試験の申請は、別紙の申請書に必要事項を記載の上、E-mail またはFAXで当センターへ申し込みする。なお、申請書の記載事項は、申請者（会社等）の氏名・住所・連絡方法、試験対象花材の品目・品種、試験実施希望の時期・試験室等を記入する。

当センターは、認定試験実施機関と実施時期を調整の上、試験を受託することを通知するとともに、試験料金は1万2千円（消費税を含まない。）とする。ただし、当センターの賛助会員関係者は1万円とする。

2. 4 日持ち試験の実施手順と試験結果の取扱

日持ち試験の具体的な実施手順については、試験を担当する花き売会社が試験対象花材の搬入の時期・方法等を申請者と調整するとともに、試験対象花材の採花から出荷までの管理・処理状況等を確認する。

また、試験結果については、申請者に試験データを提供するとともに、当センターが一定様式で一般公表してよいかを申請者と協議・確認する。

当センターのホームページ (<http://www.jfpc.or.jp>) で公表する試験結果については、試験対象花材の生産者名、採花から出荷までの管理・処理状況、品質判定基準に基づく平均日持ち日数、観察中のデジカメ写真データ等とする。

3 切り花の日持ち試験の実施方法

これまでの「日持ち保証システムモデル実証事業」等に基づき確立してきた切り花の日持ち試験の実施方法及び主要な品目・品種の品質判定基準等は、

「切り花の日持ち評価レファレンステストマニュアル Ver. 6」

(33 品目：アイリス、アガパンサス、アルストロメリア、エゾギク、カーネーション (スタンダード)、カーネーション (スプレー)、カーネーション (ダイアンサス系)、ガーベラ、キク (小ギク)、キク (スプレー)、キク (輪ギク)、キンギョソウ、キンセンカ、グラジオラス、グロリオサ、シャクヤク、シュッコンカスソウ、スイートピー、スイセン (ニホンスイセン)、スターチス・シヌアータ (リモニウム・シヌアータ)、ハイブリット・スターチス (宿根リモニウム)、ストック、ソリダゴ、チューリップ、トルコギキョウ、デルフィニウム、バラ (スタンダード)、バラ (スプレー)、ヒマワリ、ブバルディア、マーガレット、リアトリス、リンドウ) による。

なお、品目ごとの品質評価基準等の詳細は、財団法人日本花普及センターのホームページ (<http://www.jfpc.or.jp/>) の切り花日持ち試験認定事業の紹介コーナーに掲載してある。

また、今後とも、日持ち試験検討委員会での検討、試験実施機関のデータ蓄積等を踏まえ、品質の判定基準の改善、試験対象品目の追加等を実施する。

<日持ち試験を行う試験室の環境条件>

日本における居住環境を想定し、次のような環境条件で設定管理する。

温度： 周年 25℃とする。(欧米の基準では 20℃が一般的である。)

湿度： かならずしも完全にコントロールすることはできないが、60%程度を目安とする。

照度： 蛍光灯下で 1000ルクス程度

日長： 12時間 (6:00~18:00まで照明)

記録： 自動温湿度計記録装置を常時稼働する。

なお、本試験に併せて採花から花き卸売市場までの保管・輸送の温度履歴を追跡調査する。

<切り花日持ち評価レファレンステストマニュアルのバラ（スタンダード）>

日持ち終了の判断基準は、**C**が2項目以上、又は**D**が1項目で日持ち終了と判定

品質チェック項目

1. バラ(スタンダード)

項目	判定基準	備考
花卉の萎れ	触診により, A:リジッド(かたく張りがある), B:やや軟, C: 軟 , および視覚的に, D: 垂れ下がる	
花首の萎れ (ベントネック)	視覚的に, A:リジッド(しっかりしている), B:しわが寄る, C: 傾く , D: 折れ曲がる	花卉の萎れと花首の萎れは並行するが、品種により花卉の萎れのみが進行する場合がある
開花	視覚的に, A:未露心, B:露心, C: 雄ずい突出(花卉の退色が進む) , D: 落弁 , または E: 開花せずブルーイング・乾燥・変色(花卉の状態から時期を総合的に判定)	露心までは, A1:かたい, A2:ほころぶ(円筒形), A3:半開(逆円錐形), A4:全開, B:露心と判定 注1
灰色カビ病	花卉に, C: 小斑点(5mm以下) , D: 大斑点 , E: 落弁	花床に発生すると落弁
ブルーイング	A:なし, B:やや変色, C: 明らかなブルーイング , D: 激しいブルーイング	花卉の展開に伴う花色の淡色化は測定対象としない
花卉の乾燥・変色	A:なし, C: 先端がわずかに変色 , D: 先端が変色・壊死	赤色花花卉先端で発生しやすい
がく片・葉の黄変	A:なし, C: わずかに黄変 , D: 黄変 , E: 落葉	
その他	D: 落葉 , 薬害 , 虫害 など	

注1. 改訂版花の切り前(誠文堂新光社)を参考にすると、A1=4, A2=5, 6として判断する。スプレーの場合には、評価開始時点で小花数、開花数(段階A3以上)を測定した上で、以後新たに開花する小花数を測定して開花率を求める。品種にもよるが開いている花の1/2以上が上記基準にのっとり観賞価値を失った時点を目安とする。

切花の日持ち試験認定事業の試験結果公表用(事例案)

財団法人日本花普及センター

試験認定番号	JCF2006-〇〇	
試験実施期間	2006年2月27日～3月19日	
試験実施機関	〇〇市場 〇〇会社 日持ち試験室	
平均日持ち日数	19.8日(試験花材10本の平均日持ち日数)	
試験画像データ	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>試験開始日</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>10日目</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>19日目</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>21日目</p> </div> </div>	
試験対象花材		
生産地	〇〇県〇〇市町村	
生産者名	〇〇〇〇	
品目名	バラ スタンダード	
品種名・JFコード	ローズユミ Rosa (HT) 'Rose Yumi'	JF48679
栽培方式	ロックウール	
流通履歴		生産者のコメント
採花日・時間	2月25日 14時	
水揚げ・前処理の状況	〇〇〇〇〇(STS剤) 500倍 1h	
	処理室内設定温度 6℃	
調整・選花・保管の状況	前処理後～梱包までの時間 18h	
	作業場所の設定温度 17℃	
	保管中の鮮度保持剤	
	〇〇〇〇〇(STS剤) 500倍	
	保管場所の設定温度 6℃	
出荷日・時間	2月26日 11時	試験担当者のコメント
出荷・輸送の状況	出荷形態 湿式バケツ	
	輸送中の鮮度保持剤	
	〇〇〇〇〇(STS剤) 500倍	
	輸送形態 保冷トラック・混載	
	輸送中の設定温度 15℃	
市場入荷日・時間	2月26日 19時	
市場入荷時の状況 (荷姿の写真等)		

切花の日持ち試験申請書

申請日 年 月 日

財団法人日本花普及センター 殿

申請者 (法人・団体の名称・代表者等)	名称 代表者	
担当者名 (試験実施機関との連絡調整者)	役職 氏名	
住所・所在地	〒	
電話・FAX	TEL	FAX
品種名・JFコード	J F	
希望する試験実施機関 (花き卸売会社名等を記入)	第1希望: 第2希望:	
希望する試験開始日 (試験実施機関への出荷予定日)	第1希望: 第2希望:	

なお、この申請書は、まずe-mailまたはFAXで財団法人日本花普及センターへ提出していただきます。その後、試験実施機関と調整により日持ち試験を受託可能な後、申請者欄に押印した文書を提出していただきます。

また、申請に当たっては、試験対象の産地・品目・流通履歴データを可能な範囲で記入してください。

試験対象の産地・品目・流通履歴データ		
生産地・生産施設の所在地		
生産者名		
品目名		
品種名・JFコード	J F	
栽培方式		
採花日・時間	月 日 午前・午後	時 分
採花～前処理	採花～前処理までの時間	h
前処理 ※1	前処理剤の種類	
	前処理剤の希釈倍率	倍
	前処理時間	h
	処理室内設定温度	°C
	処理室内設定湿度	%
	処理室内明/暗時間	h/
選別 ※2	選別所要時間	h
	作業場所設定温度	°C
	作業場所設定湿度	%
前処理後～梱包 ※1	前処理後～梱包までの時間	h
	保管中の鮮度保持剤	
	鮮度保持剤の希釈倍率	倍
	保管場所設定温度	°C
	保管場所設定湿度	%
	処理室内明/暗時間	h/
選別 ※2	選別所要時間	h
	作業場所設定温度	°C
	作業場所設定湿度	%
梱包～出荷	梱包～出荷までの時間	h
	出荷容器	乾式・湿式
	→湿式 容器内処理剤種類	
	→湿式 処理剤希釈倍率	倍
	保管場所設定温度	°C
	保管場所設定湿度	%
	処理室内明/暗時間	h/
出荷日・時間	月 日 午前・午後	時 分

※1 品目によっては、「前処理」と「前処理～梱包」で処理液の移し替えをおこなわない場合もあると思いますので、前処理液の使用制限時間がない場合は「前処理」の欄に梱包までの時間を記入し、「前処理～梱包」の欄は空欄で構いません。

※2 本試験では、採花～出荷まで、基本的には普段通りの作業手順でおこなってください。その際、「選別」をおこなうタイミングは品目・産地によってさまざまで、「選別」の欄を2ヶ所に設けましたが、出荷までの作業手順に合わせて、どちらか一方に記入してください。

切花の日持ち試験認定事業のフローチャート

平成22年11月1日

